

イランと米英仏など6カ国との協議で、イランの核問題が進展する兆しが出始めている。イランと対立するイスラエルは現状をどう見るか、イスラエルのハイファ大学イラン・ペルシヤ湾岸研究所のソリ・シャパール氏に聞いた。

15、16日にジュネーブで開かれた協議では、11月の再協議が決まるなど一定の成果があった。

「イランは経済制裁の緩和・解除に向けて全力を注ぎ、目的達成に道筋をつけることに成功した。米欧はイランとの核協議が決裂して緊張が高まることを望んでおらず、融和路線を取らざるを得なかった」

イラン核協議 イスラエル専門家に聞く 6カ国の融和姿勢に疑問

を得なかった」

「イランは米欧に妥協姿勢を見せるが、反米欧を掲げる同国の保守・強硬派の説得は可能か。」「ロウハニ大統領は明らかに最高指導者のハメネイ師から核交渉の全権を与えられている。イランの究極の目標は宗教指導者を国家元首とする現体制の維持で、国民の不満を招いている制裁の緩和を招いている。」「イスラエルはどうか」

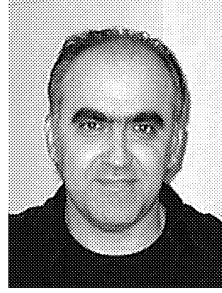
「イスラエルは米欧に妥協の交渉はハメネイ師の事前了承を得ているはずで、具体的な成果があれば説得は可能だろう」

「イスラエルは米欧に妥協の交渉はハメネイ師の事前了承を得ているはずで、具体的な成果があれば説得は可能だろう」

「イスラエルは米欧に妥協の交渉はハメネイ師の事前了承を得ているはずで、具体的な成果があれば説得は可能だろう」

ハイファ大学イラン・ペルシヤ湾岸研究所長

ソリ・シャパール氏



イラン系ユダヤ人で1960年イランに生まれ、同国の革命を機にイスラエルに移住した。97年ロンドン大博士課程修了、ハイファ大講師などを経て現職。

イスラエル・サウジの主張反映を

ソリの融和に傾く米欧を翻意させるのは難しい。

イスラエル側がイランの脅威を叫べば叫ぶほど米欧との溝が深まる」

「協議が一定の解決策で合意しても、イスラエルと、同じくイランに脅威を感じるサウジアラビアは納得できず、独自の行動に出る。両国が納得できなければイランを巡る緊張は終わらない」

「協議が一定の解決策で合意しても、イスラエルと、同じくイランに脅威を感じるサウジアラビアは納得できず、独自の行動に出る。両国が納得できなければイランを巡る緊張は終わらない」

米との同盟 亀裂深まる

イスラエル

イスラエルが孤立感を深めている。イランと長く敵対関係にあるだけに不信は簡単には払拭できず、外交には手詰まり感が

解決のためには。

「イランとイスラエル、サウジがそれぞれ直接的な交渉を拒んでいること、が緊張を高めている。現在の協議にイスラエルとサウジ両国を加えるか、中東和平交渉のように、第三国が仲介して両国の主張を合意に反映させる必要がある」

「聞き手はカイロ」押野真也

「聞き手はカイロ」押野真也

が出ている。

米英仏口独中6カ国との10月の協議でイランは一定の譲歩案を提示。米

国では早くも同国内にあるイランの金融資産の凍結解除など、制裁緩和への議論が出始めている。イスラエルは同盟国で

ある米国に立ちを隠さない。23日にはネタニヤフ首相がケリー米國務長官とローマで会談し、妥協を急がないよう要請。事務レベルでも意見交換を予定しているが、対話推進に傾いている米

国がイスラエルの期待通りに動く保証はない。両国の信頼関係がこれ以上揺らげば、イスラエルで再びイランへの「単独攻撃論」が勢いを増しかねない。

米国の仲介で再開したイスラエルとパレスチナの和平交渉にも影響するおそれがあり、イラン核開発問題の前進が別の不安要素を招く状況となっている。

（カイロ）押野真也

（カイロ）押野真也